
僕達の道は春の匂い

白丁花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕達の道は春の匂い

【Zコード】

Z5410C

【作者名】

白丁花

【あらすじ】

春の匂い。別れが近づいていることを意味している。俺は知らない間に大切な思い出を作っていた。

「もうすぐで終わりだね

日が落ちる頃のこの時期、この季節、十月には俺達。

そして何よりも、今田といへば。あなたの言ふとこりは
一瞬にして理解できた。

わかつていた。だけど、あえて考えないようにして
て突き詰められ
た。

「あ～あの漫画か」

明らかにへたくそな口振りで「まかすどいつもない俺。

「・・・はあ」

あんたもそのことにすぐ察知したよつて呆れたため息。

「まかじよつがない。

「わかつてゐつてーの」

「そんな辛氣臭い」といつなよ、ただ、別々になるだけだらう

「それだけかな」

あんたは言つ。さつと今までの関係が崩れそつ、とでも言つたいの
だひつ。

「・・・・・」

俺は返す言葉が見つからなかつた。

「君は本当に変わつたね

そうか？俺から見ればあんただつてずいぶん変わつたよつて思ひつ。

「せつちだつて、そうだろ

なにか悪こじと言われていくようでいいに氣分ではなかつた。

「別に悪い意味で言つてこるんじゃない、だけど、やつこいつといふ
は変わつていない
んだね

「まあ、だかひん、みんなが君を慕つていたとも思ひ

なぜ、こんなにも考へていてることが読まれてる。

4年間で、それだけ俺に入つてきているんだな。

そして、こんなにも得たものがあるんだ。

だから、きっとあなたはそんな満足気な顔をしているんだろ。

そして俺は何を得たんだろう。

「よし、お前ら、また来年もこの場所で会つぞ。」

そいつは、長い沈黙に土足で踏み入ってきた。

来年？俺はこのままの気持ちで来年に持ち越していいのだろうか。

「...」

しかし考えとは裏腹に最高の笑みで俺は返事をしてしまつ。

明らかに作り笑いにみんなが引いてしまうのでは、と心配をしてしまってほどの。

だけど、すごいな。

俺たちは作った笑顔なんかではなく、本気で笑っている顔だ。

いつも、なんでもない会話でしていたときの顔だ。

俺の顔の筋肉も自然な造作であった。

気持ちはずつと回じまく、変わっていない。けど、

「また、来年も・・・悪くないな」

無意識とは恐ろしい。

「いや、おまえをつか、おつよーってこいつてたよな?」

ほりあた、思っていた通りの言葉が返ってきた。

「なんか、改めて思つたんだよ」

正直、これしか言えないだろ。

「ワールドカップなんて、あいつこいつ聞だね」

遠まわしに4年間つて言つたよ。

「であれば、その一一四年なんともうとあいつこいつ聞だな」

だーかーらー。

「十人十色つて本当だな」

もういい。今の俺たちに恥ずかしいなんてものは存在しないんだ。

実は俺もなんだかんだで心地いい。

「また、俺たちにかつこーい」と言つてくれよな

「また、筋肉をみせてくれよな」

「また、体を張つて笑わせてくれよな」

「また、お前をいじらせててくれよな」

「また、恋愛を語つてくれよな」

「また、大口を聞かせてくれよな」

「また、なんでもそつなく」なしてくれよな

「また、子供の写真みせてくれよな」

「また、俺らの家まで送つてくれよな」

全員が俺を見る。

「また、大声で笑つてよね

あんたはみんなを代弁して言つてくれる。

俺の得たもの、わかつた。

みんなから必要とされていること、悪い気分ではない。

あんたはずつと前から、わかつていたのかい？

「お前ら、いつも、お前らでいろ」

早速、そいつはかつこいいこと言つていた。

さて、4年間、一緒に歩いてきた道がここから十本の道に分かれて
いる。

ここからは、一人用の道だ。

そりやそうだ。この道は俺らが選んで作つて道だから。

他人が後ろからついてくることはない。

一人一人が同時に自分の持ち場につく。

「それじゃあ」

最後ではない。

この道はつながりつと思えばいつでもつながれる。

その気になれば明日にでも。

だから、前を向く、みんなが歩き出す。

また来年、道をつなげよう。

みんなを見る景色が歪んで、一重、三重に見える。

おっと、乱視かな。

・・・そんなわけないだろ。こんな自分が嫌になる。

ずっと素直な男ではなかつた。

だからせめて最後くらいは素直につぶやくな。

「綺麗な青い春にずっと、ずっと、ひたつていたかったんだ」

(後書き)

入り込めない方もいるかもしませんが、これは僕が置かれている状況をモチーフにしてみました。共感してくれる方がいると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5410c/>

僕達の道は春の匂い

2010年11月14日14時35分発行